〔女中道具之沙汰〕御湯だらひの寸法、高さ八寸、口の廣さ一尺五寸、二重にまげて、上下にかつら入べし、

〔細純集〕御婚禮御待請御支度覺

一御湯殿○中略

盥盤大中小　湯桶二ッ　水桶二ッ　手桶二荷　柄杓大中小○下略

〔諢話浮世風呂前編上〕午前の光景

西國の方からはじめて江戸へ出て、錢湯の勝手を去らず、きよろ〳〵とつゝ立てゐたりしが、下だらいにあたらしきもつこうふんどしが、ゆにつけてあるを見て、○下略

〔錢湯來歷〕湯屋萬年暦

慶安の頃迄は、男女共に洗湯へ行に別々に褌を持來りて、是を去めかへて湯に入る、上る時は底淺き下盥にて洗ひ清し持かへる、是を湯もじといふ、其後手拭にて前を隱し湯に入し事に成しが、下盥は天保の初迄殘り有しが、不淨といひて近頃○安政は一同になし、

〔仁勢物語上〕おかしおとこ、女のもとに一よいきて、又もいかずなりにければ、女の物あらふ所にぬきかけをうちやりて、たらひに物の見えけるを、○中略かのこざりけるおとこのぞきて、

水そこに物やみゆらん馬さへもまめだらひをばのぞきてぞなく

盥用法

〔後水尾院當時年中行事下〕一毎日の次第は、早旦御ひるなり、○中略内侍ひとへぎぬきて、御手水をもてまゐる、御手洗の中へ楾を入、御清手水のとき毎度かくのごとし、常の御手水は不入なり、楾のふたを仰て、深草土器を入ふす、はいせんの人とり傳へて、御前におく、土器をとらせまし〳〵て、御口を三度すゝがせ給ひて後、かばらけを御手洗の中に投させ給ふ、此間はいせんの人楾のふたをあらためて、御手水をかく、○下略

〔延喜式四時祭〕供神今食料